

令和3年度 みんなで支える森林づくり上伊那地域会議（第2回）要旨

開催日時 令和3年（2021年）11月18日（木）13:00～16:30

開催場所 伊那合同庁舎集合～現地～上牧区公民館

出席者 （構成員）三木 敦朗（座長）、斎藤 真吾、田中 聡子、辻井 俊恵、唐木 信彦
（事務局）中島林務課長、佐口林務係長、平林林産係長、保科普及係長、
百瀬主任森林経営専門技術員、木下鳥獣対策専門員、小沢技師

現地視察

（1）箕輪町三日町、福与地区（視察場所：萱野高原）

説明者：三日町福与地区里山整備利用推進協議会 会長 中村政一氏、
同協議会 事務局 木村勉氏

概要：里山整備利用地域の認定を受けた同地区における取組（景観整備）を視察
質疑応答：Q）（三木座長）伊那市と箕輪町の間で行う樹種転換で設けた松枯れ拡大防止のバッファゾーンはどの程度か？

A）（事務局）伊那市側と合わせ延長約2kmを目指している。
（中村氏）標高900m辺りまで実施している。

Q）（斎藤氏）植樹祭開催の際、樹種選定はどのように行ったのか？

A）（事務局）在来種（コナラ、ヤマザクラ等）を中心に、地権者の要望を踏まえ決定した。

Q）（三木座長）松枯れの被害木をどのように遊歩道に利用したのか？

A）（中村氏）チップにして遊歩道（水芭蕉の群生地付近）に敷いた。

Q）（三木座長）修景林間整備に係る事業費について、昨年度と比較して面積は減少しているが活動支援額は増加している。その理由は？

A）（事務局）面積ではなく処理する伐採木の量と作業内容で積算しており、道路沿いで特殊伐採を行う必要があったため増加している。

Q）（辻井氏）高原の景観について、景観整備以前は鬱蒼としていたのか？これほど景観が良い場所とは知らず、ビューポイントとしてPRできる。

A）（中村氏）整備以前は高木が生い茂り、現在のように伊那谷を見下ろせる状況ではなかった。展望台（視察地から徒歩10分程度に位置）も整備を行えば、北アルプスから霧ヶ峰、南アルプスまで一望できるので、360度の眺望を目指して森林税の活用により整備できればと思っている。

Q）（田中氏）地域住民はどのように関わっているのか？

A）（中村氏）樹種転換後の整備として所有者が下刈り等の整備を行っているが、もっと大勢の方に参加してもらい整備を進めたい。手をかけなければ数年で元の状態に戻ってしまうので、地道に進めていきたい。

（三木座長）樹種転換後の除伐・間伐であれば初心者でも参加できるので、そこから新しい人に参加してもらおうとよいのでは。

Q）（斎藤氏）協議会発足以前は様々な組織が活動していたようだが、現在は協議会だけが活動しているのか？

A）（中村氏）協議会以前の組織も残っており、個々に活動している。協議会を中心に各組織がタッグを組み活動している形であり、事業実施箇所は各組織が相談し選定している。

- Q) (田中氏) 住民参加型による事業とあるがボランティアか？それとも薪の支給等をしているのか？
- A) (中村氏) ボランティアだけでは参加者の確保が難しいため、会から謝礼を支給することがある。また、除間伐作業等で発生した木材を薪として、通常の流通価格より安価で「軽トラ1台〇円」として販売し、その利益は会の活動費用に充てている。
- Q) (唐木氏) 高原の整備によりキャンプを楽しむ人は増加しているのか？
- A) (中村氏) 統計は把握していないが、夏場は利用者が多く、特に県外者が多い。冬場も通行可能であるが除雪はされていない。ただ、元旦に訪れる方のために御来光ポイントを整備している。

(2) 伊那市上牧地区（視察場所：上牧フットパス）

説明者：上牧里山づくり 代表 唐木隆夫氏

概要：里山整備利用地域の認定を受けた同地区における取組（フットパス整備）を視察

- 質疑応答：Q) (三木座長) 里山一帯に係る所有者の構成はどのような状況か？
- A) (唐木氏) 個人が約8割を占め、一部は区の共有地になっている。
- Q) (三木座長) 所有者の理解の下に活動していると思うが、一部の所有者から反対意見はなかったのか？
- A) (唐木氏) 整備を実施したほとんどの土地は放置されたままの状態であったため活動に対する反対はなかった。むしろ手が入ったことで喜んでいられる。
- Q) (辻井氏) 沢沿いでもないのにニセアカシアが多数あることに驚いたが、この場所に植えられた理由は？
- A) (唐木氏) 防災の観点からと思われる。植えてから年月が経ち、立木が大きくなり過ぎて倒木や枝折れの危険があるため、100本程度の伐採を予定している。

意見交換（視察の感想等）

(1) 三日町、福与地区の取組について

- (斎藤氏) ・本日視察した両方に感じたが、過去からの積み重ねによる取組は大変大きい。組織としての地力があり、そこに補助金が入るのは非常に効果的である。
- ・これから新たにスタートするような団体はあるか？
- ⇒(事務局) 新たに取り組む団体もあるが、キーマンがいるかどうかは活動の肝であり、新規の団体等に対して地区担当の林業普及指導員を軸にサポートしているところ。母体がしっかりしている団体の事例をPRすることにより、新たな取組をしようとする者の意欲に結び付けていきたい。
- (田中氏) ・各事業について助成（補助金）は3年間で終わるのか？
- ⇒(事務局) メニューのうち「県民協働による里山の整備・利用事業」は活動組織の初期段階での支援として3年の期限を設けている。それ以外は特に期限はない。
- (辻井氏) ・萱野高原からの伊那谷及び中央アルプスを一望できる景観は大変素晴らしいので、多くの人に知っていただきたい。ただ、そこにたどり着くまでの道幅が狭いと感じられる。待避所等の整備ができるとよいのだが。
- ⇒(事務局) 道路管理者（町）に伝えるが、多くの人を迎えた方がよいのか、静かな環境のままがよいのか、様々な考えがあると思われる。

⇒(三木座長)駐車場の収容数も限られるので、少数でも1年を通して長く楽しんでいただくのも一案。

- (唐木氏)・修景林間整備について、道路沿いで住民が困っている場所は管内に多くあるため、ぜひこうした取組で対応できることをPRしてもらいたい。
- (三木座長)・修景整備に伴い事業費が多額になるのはやむを得ない。道路沿いの木が倒木により道路を塞いだり電線等のインフラを傷めてしまう懸念がある箇所は優先順位をつけて実施し、地域の方がチェックし易いようにすべき。地域の方が山に目を向けやすくなれば、それを機に森林税の利用が広がっていくと思われる。

(2) 上牧地区の取組について

- (斎藤氏)・8年以上の取組の中で小学生が関わる場面が多いが、その子たちは卒業してしまう。事業継続でのこだわりは何かあるのか？
- ⇒(唐木隆夫氏)中学生になると事業への参加は難しくなるが、小学生の時に参加した者が学校林作業の数年後に友達同士でまた学校林を見に来ることがある。自ら関わった学校林を心に印象付けて成長してもらえば嬉しい。
- (田中氏)・市民が関わりやすい場所であり、車でわざわざ行かなくてもよい身近で安全な森は大変貴重である。
- (辻井氏)・学校林作業はPTAも参加するのか？
- ⇒(唐木隆夫氏)PTAは参加せず、学校・地主・協議会で「森林づくり」を実施している。関係者間で協定を結んでおり、事業は今後も継続の見込み。
- ・「補助金を使って終わり」にせず活動が発展しているとともに、地元根付いて事業を継続しており、大変素晴らしい活動と感じられる。
- (唐木氏)・視察中、下校途中の児童から「フットパス」のフレーズが聞こえてきた。子ども達に馴染んでおり、この取組が地域に浸透していることが感じられる。
- (三木座長)・森林税を使って森林だけを整備するにとどまらず、そこに関わる人(新しく地域に入ってくる者やその地域で生活している者等)に活動が広がっていくスタイルは、非常に参考になると思う。

(3) その他(今後の要望等)

- (斎藤氏)・森林税の利用率は上がっているのか？
- ⇒(事務局)第2期(H25~H29)までは基金の残高があったが、第3期(H30~R4)の更新にあわせ用途を広げたため利用率が上がり、現在はほぼ収入分の全額を執行している状況。
- (辻井氏)・森林税導入によりこんなに良くなったという個別の実績がWeb上で閲覧できるとよい。それを閲覧した者が興味を示し、応援し、参加し、繋がっていくと思う。補助金投入は短期だが、それをきっかけにこうなったというものがWeb上にあり、PRすることで他の地域に広がり発展していく。配布物はその場限りだが、Web上であれば長期間発信できる。
- ⇒(三木座長)「見てください」だけでなく「(現場に)来てください」に繋げることができる。
- (唐木隆夫氏)取組をWebに掲載したことにより、県内はもとより県外やハワイからも反響があった。
- (三木座長)・担い手について、どの団体も高齢化が課題。地域の側がどのようにまともっていくのか、新しい人(地域内の若者、地域外からの意欲のある者)をどう入れていくのが大切であり、活動に参加できる仕組みづくりにも森林税等の支援ができるとよい。

以上